

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02488

研究課題名（和文）ドイツ日本関係史料による新しい明治日本理解の構築：外交と国家形成

研究課題名（英文）New Understanding of the Meiji Japan based on the German Archives; Diplomacy and State Building

研究代表者

五百旗頭 薫（IOKIBE, Kaoru）

東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授

研究者番号：40282537

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,370,000円

研究成果の概要（和文）：本研究計画はドイツの日本関係資料を出発点として、幕末・明治期の多国間関係及びこれと連動した国家形成について研究するものである。

日独関係については、政治・外交・軍事・経済の各方面で斬新な知見を得られ、雑誌で「ドイツ日本関係史料の可能性」と題した特集を組み、概要を発表した。福岡は米国の史料へと調査を広げ、稲吉は港湾、市川は検疫、五百旗頭・箱石は軍事といった行政諸分野の発達を国際的文脈の下で検討し、成果を刊行した。

大西の紹介で国際公法学会やドイツ諸大学の研究者とのネットワーキングを進めることができた。リヨン高等師範学校が構築中の条約データベースについて日本側からの助言を求められ、協力している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

幕末・明治期の対外関係がより多角的に把握されたのが、第一の学術的な成果である。内政史・法制史に強いメンバーがそろっているため、対外関係の解釈の変化それ自体が小さくてもそれが国内状況の解釈のより大きな変化につながったのが第二の成果である。

その知見は2019年度開講の放送大学「日本政治外交史」（奈良岡聡智・五百旗頭）に反映され、テキストは放送大学の中でも売れ筋の出版物となっている。国内外の多層的・多角的な折衝の連鎖を展望すると、それがコミュニケーションの不全や欺瞞の原因ともなることを痛感する。これに触発されて五百旗頭が『＜嘘＞の政治史』（中公選書）を刊行し、斬新な史論として注目されている。

研究成果の概要（英文）：This project focuses on the multinational relations and state building of the late Tokugawa and Meiji eras through multi archival research with the German documents at the top.

We have acquired new findings of Japan-Germany relationships in various realms such as politics, diplomacy, military, and economy, resulting the special features titled “The Promise of Japan-related German Archival Documents” in an influential magazine. Fukuoka stretched her survey to the US archives while others investigated the development of various administrative fields under the international context including regulation (Inayoshi), quarantine (Ichikawa), and military (Hakoishi & Iokibe), all of which produced many articles. Thanks to the introduction by Ohnishi, we had an opportunity to expand our academic networks in the International Society of Public Law and German universities. Upon the request of ENS-Lyon (IAO), we are collaborating their project of treaty database from the Japan side.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：条約改正 日独関係 日米関係 検疫 港湾 個人情報保護 政軍関係

1. 研究開始当初の背景

従来、戦前日本の欧米諸国との外交史研究は、関係史料の整備状況の影響もあり、イギリス、米国、フランスを中心として研究が進展してきた。ドイツについては、外交上の、および制度・学術の輸入モデルとしての重要性にもかかわらず、十分な検討がなされてこなかった。過去に研究代表者(五百旗頭)は条約改正交渉の歴史を研究した際、ドイツが果たした役割の重要性に気付き、これを契機に「ドイツにおける対日外交文書の収集と利用可能性」(海外基盤 B)等の助成を受けて、ドイツにある日本関係史料の網羅的な調査と主要史料の収集を実施してきた。これを基礎に、内外の研究者とともに研究成果を生産し、発表・刊行することを望み、本研究を開始した。

明治日本の近代国家形成においては、周知のとおり、欧米諸国との対外関係が重要である。それは、第一に、日本と諸外国との外交の結果が、国家そのものの存立や対外的自立に直結しかねない状況にあったことによる。第二に、そのような外交関係を背景としつつ、日本は諸外国から近代国家を支える制度・学問・文化を政策的に導入したという点が挙げられる。しかも二つの局面は密接に関連していた。輸入・模倣の対象国が複数存在し、その間の競合は熾烈であって、しばしば内政・外交上の軋轢を伴うほどであったからである。

2. 研究の目的

マルチアーカイバルな史料収集を基盤に、日独関係史を軸として、外交史と国家形成史とを接合した新しい明治日本理解を構築する。また、これをできる限り日本および海外の研究者と共同研究として推進することで、国際的な学術ネットワークの拡大・深化に貢献する。

3. 研究の方法

概略的には、以下の4つのプロセスで進めた。

- (1) マルチアーカイバルな史料調査を通じて、資料的な基盤を強化する。
- (2) 過去に収集した資料とあわせて研究代表者(五百旗頭薫)・分担者(市川智生・稲吉晃・大西楠テア・箱石大・福岡万里子)で共有し、それぞれの能力と方法に応じて研究を進める。
- (3) 内外の学会・講演会等で発表し、論文・研究書を刊行する。
- (4) 並行して研究会を開催して成果を共有し、意見交換を通じてさらなる研究の進展につなげる。

成果が挙げられなければ、どういう方法を構想していたかを詳述しても有意義とはいえないので、下記の「4. 研究成果」で成果を説明しつつ、どのように研究を進めることができなかつたか、あるいはできなかったか、をあわせて述べていきたい。

4. 研究成果

日独関係については、政治・外交・軍事・経済の各方面で斬新な知見を得られた。福岡の尽力により、雑誌『歴博』で「ドイツ日本関係史料の可能性」と題した特集を組み、概要を発表することでフィードバックを得られた。

そこで五百旗頭は、親米国モデル的な薩派から親ドイツモデル的な長州派への漸進的ながら重要な権力の移行が、政党の台頭に先立つ重要な政治変動としてあったという展望を示した。従来から五百旗頭は条約改正史において、イギリスを排除した日米交渉から、ドイツの助力を得た対英説得への移行を論じていたが、それぞれの主な担い手が薩派、長州派であり、かつ本研究計画の遂行を通じてドイツモデルとの対比で米国モデルの意義について一定の知見を得たことから、このような内政・外交を通貫する変化の展望を示した。

無論、精緻化と留保を加える必要があり、そのためにさらなる研究が必要ではあるが、この構想が評価されて、さらなる進展のために新たなメンバーを加えて基盤研究(B)「明治政治外交史の完成を目指して：極東の国際関係と薩長交代」(令和2年度～5年度)が採択されるに至った。また、海外の講演においても、日本の近代化を明快かつ国際的文脈に即して説明する立論として高い評価を受け、特に米国各地で講演の依頼を受け、それを機会に研究者とのネットワークを拡大することができた。

福岡は蝦夷地をめぐる戊辰戦争期の日独関係についてインパクトのある研究を発表した後、米国の史料へと調査を広げ、特に初代総領事として日本に赴任したタウンゼント・ハリスの文書を精読し、日本の開国についての、中国・シヤムを含めた国際的な文脈への解明を進めた。

五百旗頭の条約改正史研究は、従来の研究が法権回復や税権回復に注目したのに対して行政権回復を目指した交渉に着目していた(五百旗頭『条約改正史：法権回復への展望とナショナル

ズム』有斐閣、2010年)。それ以降、多様な行政分野をめぐる多角的な国際交渉を具体的に検討し、大きな傾向やその遷移を析出するための共同研究を進めてきた。

本研究計画において、その本格的な成果が出始め、稲吉は港湾、市川は検疫、五百旗頭・箱石は軍事といった行政諸分野の発達を国際的文脈の下で検討し、成果を刊行した。

稲吉は、日独比較を通じて港湾及びその諸施設についての知識を深めた。その結果、普通の政治史・外交史・思想史研究者が見逃しがちな、港湾施設についてのさりげない記述を手掛かりに、政治・外交・思想にあなどれない影響を持つ利益や思考の所在を見出す方法を身に付け、その成果を発表し始めている。

市川は検疫・衛生についての研究の蓄積を活かして、明治期の検疫の技術の世界的な発展状況と日本のそれとの異同についての理解を深めた。それを基盤に、日本の検疫行政をめぐる日本と外国との周知の外交案件を取り上げ、これを日本の主権への不当な侵害の一事例として位置付けるにとどまらず、内外の技術の齟齬に着目してより客観的な説明を提案した。

箱石は戊辰戦争期について定評のある研究をさらに推進した。

五百旗頭は、幕末・明治期の日本をとりまく国際環境の多元性への着目から出発して、日本が受けた軍事的脅威への過大評価を系統的に修正すべきことを提唱した。そのことは近年、様々な事件や時代をとらえて先行研究が遂行していることであり、かつ過大評価とはいえない事例や局面があるのはもちろんである。但し五百旗頭はそこから進んで内政へと分析を転じ、軍事的脅威が差し迫っていない中で、軍事そのものの拡大よりも、軍事力を維持する源泉となる経済、政治体制、国民生活、文化・思想等へと関心と資源が際限なく分散されていく傾向のことを「源泉の遡行」と呼び、この傾向が与えた長期的影響な影響への着目を促した。五百旗頭自身は、すそ野の広い国家形成にはプラスであったが、論争の焦点が拡散するという意味で政党政治の信用確立にはマイナスであったと診断し、同様の傾向が敗戦後も吉田路線として復活し、新冷戦期においても失われず、近年、主たる深刻な脅威を隣国に見出すことによってようやく歴史になりつつあると指摘した。論及の対象が近現代全ての政治の全分野であることから、なおあらかずりの議論であることは免れないが、軍事史研究者を含む学界からの肯定的な反応を得たように思われ、本研究計画から生まれた一つの歴史観として記しておきたい。

大西は外国人の入国・滞在や個人情報保護をめぐる日独の法制の比較について研究を進めた。これらはそれぞれ明治期の条約運用と条約改正をめぐる主要問題といえるものであり、当該期の日本の政治外交史を検討する上で得難い参照枠組みとなる。

大西の人脈と紹介とにより国際公法学会やドイツ諸大学の研究者とのネットワークを進めることができた。同じく福岡の助力で米国東海岸での交流を深めることができた。

リヨン高等師範学校の東洋アジア研究所が Béatrice JALUZOT 准教授を中心に近現代の全世界の条約を包摂した極めて野心的なデータベースを構築しつつあったが、日本の幕末・維新期の条約の読解が最大のネックとなっていたところ、日本側を代表して助言を求められ、五百旗頭が一ヶ月リヨンに滞在して協力に当たった。これによって、パリに限定されないフランスの日本研究者ときわめて生産的な交流が実現した。今後、データベースの完成に向けて協力を継続することで合意している。今後、この研究計画のメンバーを中心に、日本関係の条約についての的確な分類や解説を施していけば、日本研究に大きく貢献するデータベースとなるであろうし、データベース中の他の国の条約についての分類・解説のクオリティの向上も促すことができるであろう。

以上を総合すると、幕末・明治期の対外関係がより多角的に把握されたといえる。これが第一の学術的な成果である。さらに、内政史・法制史に強いメンバーがそろっているため、対外関係の解釈の変化それ自体が小さくてもそれが国内状況の解釈のより大きな変化につながった。これが第二の成果である。

その知見は2019年度開講の放送大学「日本政治外交史」(奈良岡聰智・五百旗頭)に反映され、テキストは放送大学の中でも売れ筋の出版物となっている。国内外の多層的・多角的な折衝の連鎖を展望すると、それがコミュニケーションの不全や欺瞞の原因ともなることを痛感する。これに触発されて五百旗頭が『<嘘>の政治史』(中公選書)を刊行し、斬新な史論として注目され、多数の書評が主要紙を含む媒体で発表されつつある。

他方で当初の想定よりも少なかったのは、研究会の開催である。従来からお互いの研究を熟知・評価しているメンバーであったため、電話やメール、及び学会で会った際の議論や打ち合わせで用が足りることが多く、海外の研究者との交流も上に述べたような機会にメンバーが海外に招聘されたことで成果が挙がったため、史料調査のための出張と執筆のための史料収集により大きな力を割いた。そのこと自体は上に述べた多産な成果に寄与したが、研究交流によるシナジー効果をもっと得られればさらに良かった。研究期間の終盤に内外の研究者を招いた会の開催を計画したものの、新型コロナウイルスの影響を警戒して断念した。今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 2019年8月
2. 論文標題 三つの安全を求めて 近代日本の政党政治と軍部	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 細谷雄一編『軍事と政治 日本の選択：歴史と世界の視座から』文芸新書	6. 最初と最後の頁 34-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 2019年8月号
2. 論文標題 日本政治外交史の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 政治外交検証研究会レポート	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 2019年6月
2. 論文標題 『増補 中国「反日」の源流』への解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 webちくま	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 2019年6月
2. 論文標題 解説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡本隆司『増補 中国「反日」の源流』ちくま学芸文庫	6. 最初と最後の頁 325-332
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 2019年4月
2. 論文標題 完成させるということ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡義武『転換期の大正』岩波文庫	6. 最初と最後の頁 361-396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲吉晃	4. 巻 181
2. 論文標題 福沢諭吉、港をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福沢手帖	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西楠・テア	4. 巻 81
2. 論文標題 ドイツにおける個人情報保護法制の構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較法研究	6. 最初と最後の頁 183-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西楠・テア	4. 巻 59
2. 論文標題 戦後日本の民主主義において司法が果たした役割 ハレ大学シンポジウム『明治維新の遺産 民主主義への道 (1868年~2018年)』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 専修大学法学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KAORU IOKIBE	4. 巻 Meiji 150
2. 論文標題 Dini Mesrutiyet ve Enternasyonalizm?: Modern Japonya ' nin Meydan Okumasi	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asya Pasifik Calismalari Uygulama ve Arastirma Merkezi	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KAORU IOKIBE	4. 巻 Meiji 150
2. 論文標題 Religious Constitutionalism and Internationalism?: Challenge of Modern Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asya Pasifik Calismalari Uygulama ve Arastirma Merkezi	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 平成30年秋
2. 論文標題 日本を躍動させたもの：西洋への接近と距離	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立公文書館特別展示図録	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 209
2. 論文標題 食欲の報い ドイツ史料から見える条約改正史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 総合誌歴博	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TOMO ICHIKAWA	4. 巻 69
2. 論文標題 Japanese Occupation and Public Health in Qingdao: The Case of the Cholera Epidemic in 1919	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Acta Historica Leopoldina	6. 最初と最後の頁 235-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川智生	4. 巻 209
2. 論文標題 ドイツから見た明治日本の感染症制御	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 総合誌歴博	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MARIKO FUKUOKA	4. 巻 February 2019
2. 論文標題 German Merchants in the Indian Ocean World: From Early Modern Paralysis to Modern Animation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Angela Schottenhammer (ed.), Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World, vol.1: Commercial Structures and Exchanges, Palgrave Mcmillan	6. 最初と最後の頁 259-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡万里子	4. 巻 209
2. 論文標題 戊辰戦争とドイツ公使プラント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 総合誌歴博	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡万里子	4. 巻 13
2. 論文標題 初代米国駐日総領事ハリスが遺したニューヨーク市立大学所蔵日本関係史料	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 きざし	6. 最初と最後の頁 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MARIKO FUKUOKA	4. 巻 vol. XXIV, Nr.2
2. 論文標題 Townsend Harris Connects New York and Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Education Update	6. 最初と最後の頁 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲吉晃	4. 巻 第53巻第4号
2. 論文標題 国家と都市のあいだの不健全な緊張関係：『軍港都市史研究 ～（清文堂、2010～2017年）』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経営史学	6. 最初と最後の頁 48-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松居宏枝	4. 巻 209
2. 論文標題 伊藤博文は何を目指して渡欧したのか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 総合誌歴博	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 フランク・ケーザー	4. 巻 209
2. 論文標題 ドイツ所在史料から見た日本の捕虜収容所	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 総合誌歴博	6. 最初と最後の頁 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 132-4
2. 論文標題 政党から職分への500年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 100-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 1
2. 論文標題 明治期における政党政治・議会政治の発展	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内閣官房「明治150年」関連施策推進室『「明治150年」関連施策の推進に向けて～有識者からの寄稿集～』	6. 最初と最後の頁 56-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 1
2. 論文標題 明治日本の対外態度	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内閣官房「明治150年」関連施策推進室『「明治150年」関連施策の推進に向けて～有識者からの寄稿集～』	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 4
2. 論文標題 岩倉使節団のパスサージュ:ヴァルター・ヴェンヤミンと明治日本	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学際	6. 最初と最後の頁 62-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 2017-1
2. 論文標題 【2017年度書評】前田亮介『全国政治の始動 帝国議会開設後の明治国家』・奥野健太郎・河野康子編 『自民党政治の源流 事前審査制の史的検証』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 242-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 3
2. 論文標題 犬養毅:野党指導者の奇遇	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 筒井清忠編『昭和史講義』ちくま新書、2017年	6. 最初と最後の頁 107-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五百旗頭薫	4. 巻 86
2. 論文標題 嘘の明治史 五ノ七ノ五で嘘を切る	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 110-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 26件 / うち国際学会 21件）

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 戦間期の政党政治の教訓
3. 学会等名 現代政治と文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 戦前日独の競合と協調の歴史
3. 学会等名 湘南日独協会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 Diplomatic History of Japan
3. 学会等名 Asian-African Legal Consultative Organization（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 Lessons from 2 parties system of 20th cen. Japan: Liberals and Progressives
3. 学会等名 SSSA Conference (Japan Society, NY, USA)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 Crossroads of 19th century Japan: US and Germany
3. 学会等名 SSSA Conference (Japan Society, NY, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 Japan-US Relations: From Early Friendship to the Present
3. 学会等名 Marshall University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 Short Story of How Japan has been based on Where Japan is
3. 学会等名 GRIPS・JICA日本理解プログラム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 The Modernization of the Japanese State: How to regulate foreign visitors
3. 学会等名 ICON-S The International Society of Public Law (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福岡万里子
2. 発表標題 初代米国駐日総領事ハリスのアジア諸港における外国人居留地人脈 珠江デルタ地帯・寧波・上海を中心に
3. 学会等名 東洋史研究会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福岡万里子
2. 発表標題 米使ハリスの1856年対シャム条約交渉 - 日本開国史との相違と接点を探る
3. 学会等名 歴博基盤研究「近世近代転換期東アジア国際関係史の再検討 - 日本・中国・シャムの相互比較から」成果論集準備研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 勝者の苦悩：歴史認識を考える
3. 学会等名 城西大学エクステンション・プログラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 明治期の国家形成と西洋からの物理的距離
3. 学会等名 日独シンポジウム『明治維新の遺産 リベラルデモクラシーへの道』（ドイツ・マルティンルター大学ハレ=ヴィッテンベルグ）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 Modern and Contemporary History of Japan: In-Depth Discussion, Exercises, & Resources
3. 学会等名 SSSA Conference (Japan Society, NY, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 Distance, Time, Crossroads, & Expansion: Experience of Modern Japan
3. 学会等名 SSSA Conference (Japan Society, NY, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 Background and Sequences of Prewar Showa Japan
3. 学会等名 SSSA Conference (Japan Society, NY, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 150th Anniversary of Meiji Restoration: A Look into Japanese Modernization Efforts 19th & 20th Centuries
3. 学会等名 キング・ファイサルセンター (サウジアラビア) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 Modernization of Japan and its Background
3. 学会等名 ヨルダン大学戦略研究所(ヨルダン)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 Modernization of Japan and its Background
3. 学会等名 アラブ思想フォーラム(ヨルダン)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西楠テア
2. 発表標題 1968年以降の議会主義における司法および法律家の役割
3. 学会等名 日独シンポジウム『明治維新の遺産 リベラルデモクラシーへの道』(ドイツ・マルティンルター大学ハレ=ヴィッテンベルグ)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲吉晃
2. 発表標題 政治空間としての開港：実業家は開港に何を求めたか
3. 学会等名 日本経済思想史学会大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 AKIRA INAYOSHI
2. 発表標題 Portsand Politics: Blind Spots in Nation States
3. 学会等名 ミンスター大学国際経済法研究所研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 条約改正史：薩派の相克と大名の復権
3. 学会等名 尚友倶楽部近代史研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 From Black Ships to ONE PIECE: Japan-U.S. Relations
3. 学会等名 Institute for Japanese Studies, Ohio State University（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 From Black Ships to ONE PIECE: Japan-U.S. Relations
3. 学会等名 The Maureen and Mike Mansfield Center, Japan Studies Program Lecture（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 From Black Ships to ONE PIECE: Japan-U.S. Relations
3. 学会等名 Boise State University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 五百旗頭薫
2. 発表標題 日本の不平等条約改正史におけるドイツの役割：在独日本関係史料調査の近況を踏まえて
3. 学会等名 湘南日独協会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 Japanese Democratic Model: experience and responsibility for the future
3. 学会等名 フランス国際関係研究所 (IFRI) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 From Perry to War with China
3. 学会等名 Walter H. Shorenstein Asia Pacific Research Center (APARC), Stanford University シンポジウム History of US-Japan Relations (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAORU IOKIBE
2. 発表標題 Japanese Modernization under American Intervention and Isolation
3. 学会等名 Center for Japanese Studies and International Policy Center, University of MichiganシンポジウムUS-Japan Relations: Past, Present, and Future (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 五百旗頭 薫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 嘘 の政治史：生真面目な社会の不真面目な政治	

1. 著者名 Iokibe Kaoru, Komiya Kazuo, Hosoya Yuichi, Miyagi Taizo, Tokyo Foundation for Policy Research's Political and Diplomatic Review Project Eds.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Lynne Rienner	5. 総ページ数 200
3. 書名 History, Memory, and Politics in Postwar Japan	

1. 著者名 五百旗頭薫・奈良岡聡智	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教材	5. 総ページ数 286
3. 書名 日本政治外交史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	市川 智生 (Ichikawa Tomoo) (30508875)	沖縄国際大学・総合文化学部・准教授 (38001)	
研究分担者	福岡 万里子 (Fukuoka Mariko) (50740651)	国立歴史民俗博物館・歴史研究系・准教授 (62501)	
研究分担者	箱石 大 (Hakoishi Hiroshi) (60251477)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	大西 楠・テア (Ohnishi Nami thea) (70451763)	専修大学・法学部・准教授 (32634)	
研究分担者	稲吉 晃 (Inayoshi Akira) (70599638)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	
研究協力者	伊藤 洋一 (Ito Yoichi)		
研究協力者	小島 慎司 (Kojima Shinji)		
研究協力者	浅田 進史 (Asada Shinji)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	国分 航士 (Kokubu Koji)		
研究協力者	松居 宏枝 (Matsui Hiroe)		
研究協力者	ブレヒンガー＝タルコット ヴェ レーナ (Blechinger-Talcott Verena)		
研究協力者	オーバーレンダー クリスティアン (Oberlaender Christian)		
研究協力者	エバースペツチャー コード (Eberspacher Cord)		
研究協力者	ケーザー フランク (Kaeser Frank)		